



関連病院実習カリキュラム（耳鼻いんこう科 1～2週間）

病院名：碧南市民病院

診療科：耳鼻いんこう科

期間：1～2週間

実習管理責任者：杉浦誠治

カリキュラム責任者：竹内健二

実習指導医：竹内健二

1 実習目標

一般目標：

一般臨床医としての基礎及び臨床に挑む姿勢を理解するため、耳鼻咽喉科診断に必要な基礎的知識、耳鼻科的疾患と内科的全身疾患の基礎知識との関連性の検討、疾患も対する問題解決方法の基礎的な考えの習得、さらに他の医療従事者との協調性や臨床医に必要な態度や価値観、倫理観を体得する。

行動目標：

- ① 患者及び家族と良好な人間関係を確立する。
- ② 望ましい面接技法と系統的問診法を用いて、正確で十分な問診・病歴採取ができる。
- ③ 耳鼻いんこう科における基本的診察法を理解し、その意味を理解する。
- ④ カルテに記載されている所見、基本的検査を理解できる。
- ⑤ これらの所見と全身的所見・検査所見を照らし合わせ、考えることを習慣づける。
- ⑥ これらの情報から適切な診断、治療計画の作成、教育計画の検討ができる。
- ⑦ これらの結果を周囲の指導医に適切に伝えることができる。これらを基に入院・外来カルテ、入院概要録の作成ができる。
- ⑧ 手術室における作法を理解し・実践し、手術手技の目的・適応の理解ができる。
- ⑨ 術後の局所・全身、精神的経過観察ができる。
- ⑩ 他職種の医療スタッフとも協調、協力し、的確に情報を交換して問題に対処できる。

2 実習方略（実習方法）

(1) オリエンテーション

(2) 受持ち患者

3～4名の入院患者を担当する。

(3) 病棟実習

- ① 入院患者は毎日診察し、必要に応じて夜間休日も行い、診療内容を電子カルテに記載する。
- ② 主治医の診察に同行し、診察方法、所見、検査方法の内容を理解する。
- ③ 担当患者の治療検査予定を理解し、治療方法立案時に参加するようする。
- ④ ベッドサイド、診察室、手術室での手技に参加・見学する。また、その手技の必要性

も理解する。

- ⑤ 毎日就業時に診察内容、電子カルテ記載の内容のチェックを指導医に受ける。

(4) 入院時カンファレンス

毎週、入院患者カンファレンスの際に、受持ち患者の症例呈示を行う。

(5) 外来実習

- ① 毎週月・火・木曜日は外来において、新来患者の予診をとり電子カルテに記載する。
② 自分が予診を取った患者の診察を見学する。この際、患者の同意が得られれば自ら診察も行う。

3 実習評価（チェックリスト）

(1) 診察法

- 適切に医療面接を行える
 - 病歴聴取が耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、気道、消化器にわたり十分にできる
- 耳鼻咽喉科診察機器が操作できる
 - 額帯鏡（ライト）、耳鏡、鼻鏡、咽頭鏡
 - 咽頭ファイバー
 - 平衡機能・フェレンツェル眼鏡
- 耳内、鼻内、咽頭、喉頭の所見を理解する
 - 鼓膜所見
 - 鼻腔所見
 - 咽頭所見、喉頭所見
 - 顔面運動所見
- 平衡機能所見、頸部触診ができる
 - 眼振所見
 - 頸部触診（甲状腺も含む）、聴診ができる
 - 顔面、顎関節の運動観察（神経学的検査も含む）
- 喉頭、嚥下の機能が理解できる
- 全身所見を捉える
 - 全身観察（顔面・皮膚など）
 - 頸部、胸部、腹部の触診、聴診ができる

(2) 基本的臨床検査法

- 聴力検査、ティンパノグラムが理解できる
- 鼻腔通気度、嗅覚検査、局所アレルギー検査
- 全身のアレルギー検査を理解できる
- 鼻・咽頭・中耳の細菌学的検査を理解できる
- 発声機能検査を理解できる

(3) 画像検査法

- 単純エックス線写真の結果を解釈できる
 - 中耳単純
 - 副鼻腔単純

- 頸部単純
- 食道透視、嚥下障害が理解できる

(4) 救急対処法

- バイタルサイン（意識、体温、呼吸、循環動態など）チェックができる
- 気管内挿管、気管切開の適応を理解できる
- 気管、食道異物の対処方法を理解する
- 扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋などの存在を理解する

(5) 医療の場での人間関係

- 患者や家族との適切な人間関係をつくることができる
- 指導医及び他の医師、コメディカル・スタッフとの適切な人間関係をつくることができる

(6) 一般医療従事者としての注意及び配慮ができる**(7) 医療文書の作成**

- 適切な診療録・入院診療概要約が作成できる
- 適切な症例呈示ができる